



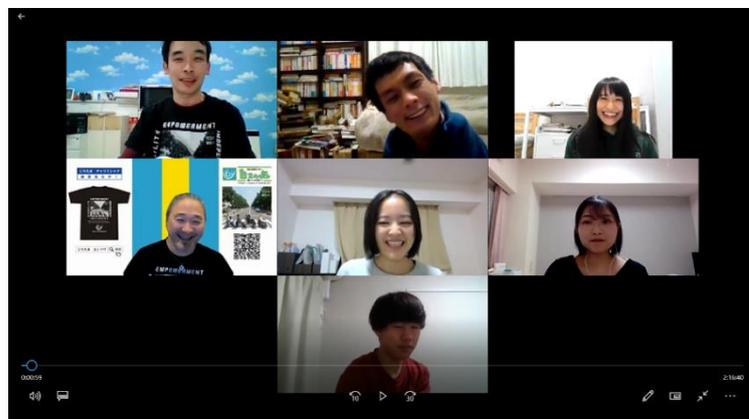
【自立の魂×ライチウス会×KEIO 2020 project】

じりっとお茶会 開催しました！

これまでじりたまの活動は約20年、様々な理解者、支援者の方々とのよき出会いに支えられて続けていくことができました。なかでも、イベントの運営や募金活動など実際の活動に協力してくれる地元の学生の存在はじりたまにとって必要不可欠で、いつも私たちにとっての励みであると同時に大きな原動力となっています。

しかし、折からのコロナ禍により外部との交流が著しく制限されることとなった今、この先の活動の展開を見据えた新たなつながりを築くため、2021年11月29日(月)、新企画「じりっとお茶会」をオンライン上で開催しました！集会や講義とはまた違ったフラットな空間で、ワイワイ(ごっくばらんに)モグモグ(好きなものを食べながら)リラックスしながら交流する機会を設けることで、より親密な関係性とより具体的な活動についてのアイデアを育むことができるのではないかという試みです。

今回初となる「じりっとお茶会」に参加いただいたのは、慶応義塾大学の公認ボランティア団体「ライチウス会」に所属するの方々。前代表と現代表も含めて、急な呼び掛けだったにもかかわらず、計4名のメンバーがオンライン上に集っていただきました。



お茶会の趣旨に賛同し、今回の出会いを取り持って下さったライチウス会前代表の吉田 凧さん（3年）は昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック 2020 の英国代表団サポート組織「KEIO 2020 project」にも所属されており、その活動の一つとして慶応義塾大学日吉キャンパス内のバリアフリーマップ作成の際にじりたまメンバーが参加したことが縁で、以降じりたまの活動に興味を持ってくださるようになりました。KEIO 2020 project は今年度で 5 年間に渡る活動を終了しますが、動画作成やパンフレットの配布を通じて日吉地域の住民とパラリンピアンとの交流を促進し、選手たちのモチベーションを高めるとともにキャンプ期間中快適に過ごしてもらうための環境調整、バリアフリーのためのアイデアを学生主体で考案、準備するなど、今後もレガシーとなるような多方面の成果を残しました。

お茶会ではまずそれぞれの団体の活動紹介を中心に、やり取りが進められました。じりたまからは初めに、そもそも自立生活センターとは何か？を知っていただくということで、代表磯部の自分史を軸に、団体を設立するまでの経緯、自立生活センターの理念を「自由への疾走」というキーワードで説明しました。多くの人にとって当たり前であること（カラオケ、ライブ、夜の外出など）も、障害者にとっては親元や施設を出て自立して初めて実現できるかけがえのない自由であるということ、そのためには信頼できるヘルパーを自ら育成することが不可欠であるということが語られました。続いて、じりたまが現在、障害の有無を問わず誰もが暮らしやすいインクルーシブ社会をつくるために取り組んでいる活動を、《伝える活動－講師業》、《発信する活動－イベント企画、運営》、《楽しむ活動－仲間づくり》という項目に分けて紹介しました。話を聞いてくださった学生の参加者からは「様々な分野にわたって、幅広く活動なさっていることに驚きました！」という声をいただきました。

ライチウス会のみなさんからは創立から 90 年以上に渡る団体の歴史の中で活動の目的や内容が変転しながら今に至ったという経緯とともに、コロナ前とコロナ後での活動の変化についてお教えいただきました。

もとは大学内の禁酒運動を推進する団体として活動を始めたライチウス（フィンランド語で清く、正しく、明るくという意）会は、現在児童養護施設での学習支援や障害者施設での活動といった主に子どもたちを対象としたボランティアを定期的に行っています。また、年単位の活動として山梨県にある知的障害者施設で「お泊まりボランティア」という合宿を行いながら、ともに農作業や養鶏に勤しみ汗を流しています。

ライチウス会が長年にわたり代々培ってきたボランティア精神をもとに行われてきたこのような活動は、昨今のコロナ禍により大幅に制限せざるを得なくなりました。しかし、現在団体のメンバーはそのような状況にめげず、11 月からオンラインを駆使した学習支援を試み始めました。

活動紹介の後のディスカッションでは互いの団体の活動について、興味深かった点やより深掘りしてみたい点について述べあいました。その中で共通して挙げた話題が団体メンバーの中の多様性と仲間の重要性です。ライチウス会は現在 60 名以上の学生によって構成されていますが、そのひとりひとりが会に参加した動機もボランティア活動の経験値も異なります。しかし、メンバー全員がそれぞれの個性や経験を持ち寄り、分かち合いながら、ともに活動するメンバー間でのエンパワメントが自然と生まれているのです。

私たちじりたまも全国に 126 か所ある自立生活センターのネットワークを通じて、障害の種別、有無を越えて仲間たちが協力し合いながらそれぞれのプロジェクトの実現に向けて日々邁進しています。自分が楽しいこと、やりたいこと以上に、他の仲間たちが求めていることは何か？みんなと一緒に楽しめることは何か？という点にメンバーが互いに目を向けることで団体の活動の幅が徐々に広がっていき、仲間がいるからこそひとりの自己実現以上の大きな夢をともに成し遂げられるのです。

多様性こそが団体の力になっていること、当事者のそばに直接寄り添うことのおかげがえのなさと楽しさを活動の軸に置きながらこのコロナ禍においても新たな出会いを模索していることなど、お互いの団体の共感できる部分が想像以上に多く掘り出せたことが今回のお茶会での何よりの収穫だったと思います。今回お忙しい中ご参加いただいたライチウス会のみなさんの更なるご活躍をお祈り申し上げますとともに、互いに楽しみ、エンパワメントし合えるような実現可能なアイデアを気軽に出し合えるような関係性を末永く築いていければと願っています。